

日本遺産を構成する20の文化財

20 Component Cultural Properties

およそ1400年前は、日本史上初の土木工事ラッシュの時代。各地で築かれた古墳は、その地で権勢をふるった人物やその地の歴史の記念碑(モニュメント)でもありました。多くの古墳が風化した現代にいたるまで、当時の姿かたちを克明に残す宮崎平野の古墳群は、時を越えて古墳時代の人びとの世界を伝えてくれます。

1 A 九州最大の規模を誇る古墳群 西都原古墳群

南北4.2km、東西2.6kmの広範囲に300基を超える古墳が点在し、その中心域である西都原台地上では、古墳の周りに建築物がほとんどない歴史的文化的景観が保持されています。特別史跡としての指定面積は58ha以上で、保存と活用が図られています。



2 A コノハナサクヤヒメの御陵という伝承 女狭穂塚古墳

1895(明治28)年に陵墓参考地となり、現在は男狭穂塚とともに宮内庁によって管理されています。墳丘は三段築成で葺石や造り出しを持ち、周囲には盾形の周堀が巡っています。



写真提供/宮崎県立西都原考古博物館

3 A 年に一度の特別参拝 男狭穂塚古墳

帆立貝の平面形を有する古墳としては全国一の大きさで、毎年11月初旬の「西都古墳まつり」では、年に一度の特別参拝(陵墓参考地内での参拝)が行われています。

(下段写真)
左:女狭穂塚古墳
右:男狭穂塚古墳
写真提供/宮崎県立西都原考古博物館



4 A 一夜で完成させた鬼の仕業 西都原古墳群第206号墳 (鬼の窟古墳)

コノハナサクヤヒメを嫁にと願う鬼が、ヒメの父神オオヤマツミの要求によって一夜のうちに岩屋を完成させたと伝えられています。巨大な岩を積み上げた作業は、鬼の仕業という地域伝承を生みしました。



写真提供/宮崎県立西都原考古博物館

5 A 古代ロマンに思いを馳せながら 高取山

西都原古墳群が位置する台地の最高所である小高い丘(標高約120m)。展望台からは古墳群を一望でき、古墳景観を体感できる重要な名勝地です。4月初旬は桜、中旬にはミツバツツジが咲き誇ります。



6 A 神話の世界に触れる 古墳への小径 (記紀の道)

西都原古墳群は神話と結び付けられ、多くの地域伝承を生みしました。コノハナサクヤヒメを祀る都萬神社、二人が出会った逢初川、コノハナサクヤヒメが三人の皇子を産んだ無戸室、皇子達の産湯に使った児湯の池など、神話の世界に導きます。



7 A 古墳時代の鏡 西都原古墳群出土遺物

西都原古墳群からは古墳時代前期(4世紀)から中期(5世紀)の7面の鏡の出土が知られています。ヤマト王権から配布されたと考えられ、祭祀に用いられました。神仙思想に基づく背面の文様や、光と影を映し出す鏡面の輝きは、人々の心をとらえました。

写真提供/宮崎県立西都原考古博物館



8 A 全国でも例を見ない子持家 西都原古墳群出土 埴輪子持家・船

伏屋式の主屋の四方に壁建式の附属屋が取り付く全国でも唯一の家形埴輪です。古墳人の優れた感性と表現力の結晶といえます。船とともに重要文化財に指定されています。

原品:東京国立博物館所蔵
写真はレプリカ:宮崎県立西都原考古博物館所蔵
写真提供/宮崎県立西都原考古博物館



9 A 国内屈指の古墳時代馬具の優品 日向国児湯郡西都原 古墳出土 金銅製馬具

精緻な龍文透彫と素文の二種の金銅製馬具で、図文や製作技法の特徴から6世紀前半の新羅系馬具と位置付けられます。宮崎県出土の考古資料としては唯一の国宝に指定されています。

原品:五島美術館所蔵
写真は同素材復元品:宮崎県立西都原考古博物館所蔵
写真提供/宮崎県立西都原考古博物館



10 A 炎の躍動感を感じる 西都古墳まつり

室町時代にさかのぼる「山陵祭」や「御陵祭」が原形となる祭りで、西都原古墳群と人々のつながりを今に伝える催事。毎年11月上旬の週末に開催され、陵墓参考地の特別参拝も行われます。古代神話をたいまつ行列、炎の祭典等で表現しています。



11 B 広大な範囲に4つの古墳群が展開 新田原古墳群

ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。一ツ瀬川を挟み西都原と対峙する新田原には200基以上の古墳が分布しています。古墳時代後期(6世紀)には南九州で最大の勢力を誇っていました。

写真提供/宮崎県立西都原考古博物館



12 B 西日本最大規模の埴輪群 新田原古墳群第58号墳 (百足塚古墳)出土埴輪

県内で初めて発掘された人物を含むまとまった形象埴輪群。古墳に並べられた人物・動物・家・太鼓等の埴輪は、西日本有数の質と量を誇り、ヤマト王権との関係性のなかで花開いた南九州の古墳文化の到達点を示しています。

展示:新富町総合交流センター きらり



13 C 様々な古墳景観 生目古墳群

ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。大淀川右岸の独立丘陵上に50基の古墳が分布しています。古墳時代前期(4世紀)においては九州最大の規模を誇っていました。



14 C ここにしかない壺形埴輪 生目古墳群出土遺物

5世紀初頭に築造された前方後円墳である5号墳から出土した壺形埴輪は、僅かにふくらみをもった筒状の胴部に、皿を載せたような独特の形をしています。全国でもここでしか見つかっていない珍しい形です。

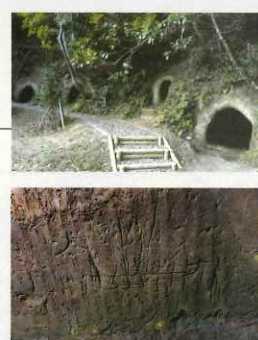
展示:生目の杜 遊古館



15 C 線刻壁画 蓮ヶ池横穴群

蓮ヶ池横穴群の中のいくつかの横穴では線刻壁画が確認されています。53号横穴の壁画は、舟や人物(顔)が線刻で描かれており、死者の魂が舟に乗り、鳥に先導されて他界へと旅立つ様子と、それを見送る人びとが描かれています。

写真提供/宮崎県立西都原考古博物館



16 C 最大級の地下式横穴墓 宮崎市下北方地下式 横穴第5号出土品一括

5世紀後半に築造された下北方9号墳(円墳)の墳丘下で発見された、玄室長5mを超える最大級の地下式横穴墓です。豊富な副葬品は、埋葬された人物のヤマト王権内での位置付けや果たした役割を具体的に可視化できる資料です。

写真提供/宮崎県立西都原考古博物館



17 D 日向灘を望む古墳群 持田古墳群

ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。85基の古墳があります。古墳時代全時期(4~7世紀)をとおして安定した勢力を保持していました。



18 D 海の向こうの大国を感じる 持田古墳群出土遺物

持田古墳群を代表する出土品。副葬品の中でも青銅鏡や玉類の出土数は豊富です。長年にわたりヤマト王権や朝鮮半島との結びつきがあった様子を示しています。

所蔵及び写真提供:宮崎県立西都原考古博物館



19 D 阿蘇溶結凝灰岩で造られた石棺 持田古墳群第15号墳 (石舟塚)出土石棺

持田古墳群の石舟塚(第15号墳)から出土した、阿蘇溶結凝灰岩で造られた構成文化財唯一の石棺です。棺の大きさや道具(鉄のみ)の痕跡、棺内部の様子などを間近で観察できる貴重な資料です。

展示:高鍋町歴史総合資料館



20 D 個性豊かな巨大石像群 高鍋大師

昭和初期の持田古墳群の大規模な乱掘に心を痛めた故岩岡保吉氏が私財をなげうち、古墳に眠る人々を慰霊するために半生をかけて造像しました。持田古墳群とともに県の観光遺産に認定されています。

写真提供/宮崎県立西都原考古博物館

